

令和元年度事業報告書

〔自 平成31(2019)年4月1日 至 令和2(2020)年3月31日〕

当財団は、受け継がれてきた歴史ある「美濃焼」をかけがえのない地域資源と位置付け、それを活用した地域の産業・文化・観光の振興に取り組むことを「目的」としている。そのために、事業計画方針に基づき、職員がとるべき「行動指針」を以下の通り定め、各種事業の実施に努めた。

本年度は、長年の懸案であり、その修繕を強く要望し準備してきた屋上広場及び回廊周辺のタイルの貼り換え工事を、岐阜県の費用負担のもと完了することができた。地元で製造したタイルを使用したりノベーションにより、施設的美観と来館者の安全性の向上を実現することができた。

あわせて岐阜県の費用負担のもと、施設内の1階と2階の共用スペースにWi-Fi環境を整備した。これにより来館者の利便性を高め、特に次年度以降の外国人の来館を期待している。

しかしながら、年度末には新型コロナウイルス感染症が全国的に広がり始めるにつれ、当施設の貸館を利用する主催者の開催自粛が目立ち始め、当財団も3月の自主企画事業の開催見送りを決定した。

また、併設の岐阜県現代陶芸美術館への来館者数も減少し、3月における施設全体の来館者数は4,543人(対前年同月比 40%)にとどまった。

財団目的

地域に根付く美濃焼を活用し、岐阜県東濃西部地域の産業、文化及び観光の振興に寄与する。

事業計画方針

- (1) セラミックパークMINOの指定管理者として、指定管理業務の遂行
 - ・セラミックパークMINO貸館施設運営
 - ・セラミックパークMINOの維持管理に関する業務
 - ・利用者サービス向上に関する業務
 - ・陶磁器産業の育成を図り、もって岐阜県の産業の発展及び観光振興に関する業務
- (2) 財団経営基盤の安定化及び健全経営の推進
 - ・貸館施設利用率向上のための営業強化
 - ・施設経営の効率化と徹底した運営経費削減
 - ・岐阜県現代陶芸美術館との連携
- (3) 組織体制の見直し
 - ・事業内容検討
 - ・職員職種の見直し及び人員の適正配置の検討

行動指針

- (1) “安全、安心、快適”な環境整備
- (2) “自主性、責任感、使命感”を旨とした勤務態度
- (3) “スピード、挑戦、やり抜く”業務推進力

1 利用者サービス向上の取組み

以下のとおり来館者サービスを実施することにより、来館者に親しまれ、リピーターとなつていただける施設づくりを進めた。

(1) 総合案内サービス

来館者にとって一番対応ができるショップスタッフを来館者向けの総合案内サービス担当とし、様々な情報を集約し、岐阜県現代陶芸美術館、作陶館、イベント会場等の施設に関する案内、近隣の観光施設、食事処の案内など、地域の観光やアフターコンベンションに関する情報提供を行った。

また、茶室の見学希望があつた際には、事務所スタッフと連携し、施設の丁寧な説明、案内に努めた。

(2) 利用者の意見の反映や苦情への対応

ア 来館者アンケートの実施

来館者からは常時、アンケート用紙によりお客様の率直な意見を伺つた。回収した意見はスタッフ全員で共有し、施設運営など早急な改善を行うとともに、次のイベントの企画内容等の改善に努めた。

イ 貸館施設利用者アンケートの実施

貸館利用者に対してアンケート用紙により、職員対応、貸館利用に関する意見、要望の記入を行ってもらい、貸館業務にかかわる一切を万全の体制と良好な施設利用環境となるよう努めた。

ウ ショップのインフォメーション業務において担当者が伺つたお客様からの要望、意見等は財団の日報に記入するとともに、財団内でその対応を検討し、早期に改善するなど施設全体の改善に活用した。

(3) スタッフ勉強会の開催

貸館施設の対応について備品料金の取扱いや延長料金など誤りのないよう職員間で情報共有を図つた。また、作陶館においては体験内容の説明ができるよう研修を行った。

(4) 快適な施設環境の整備

財団スタッフ全体で清掃や施設設備の不備に注意を払い、来館者の快適な施設環境の創出を行った。

2 貸館施設稼働率向上の取組

当施設の貸館施設は、3年ごとに開催する国際陶磁器フェスティバルをピークとした稼働率の推移が定型化している。さらなる稼働率向上、目標稼働率の達成に向け、以下の取組みを行った

結果、新規利用獲得等により展示ホール、イベントホール、小会議室の稼働率は前年度と比較して向上。特に展示ホールの向上幅が大きかった。一方、屋上広場、茶室に関しては屋上等タイル修繕工事の実施に伴う貸出停止の影響が大きく、稼働率は減少となった。

なお、2月下旬以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用予約のキャンセルが相次ぎ、各施設0.6%～1.1%程度稼働率が押し下げられた。

□施設別稼働率・施設使用料収入・来館者数の実績

施設別稼働率	目標稼働率	令和元年度	平成30年度	平成29年度
展示ホール	40%	49.7%	36.8%	52.4%
国際会議場	30%	30.6%	33.1%	27.3%
イベント ホール	40%	36.4%	36.2%	39.3%
小会議室	40%	44.7%	40.4%	44.8%
茶室	20%	8.1%	12.5%	21.2%
屋上広場	30%	10.6%	21.7%	28.7%
施設使用料収入		42,977千円	32,280千円	37,706千円
来館者数(施設全体)		184,126人	249,991人	250,259人

(注1) 稼働率は、該当施設年間利用日数/年間開館

- ア 各種団体、広告代理店、民間会社を中心に施設の広報活動を兼ねて定期的に訪問し、当施設を利用したイベント開催の働きかけを行った(新規営業、再訪問含め29件の企業へ直接訪問)。また、近隣施設で開催されたイベント開催事業者などの関連情報を収集し、事業者35件に対しDMによる施設紹介を行い需要の掘り起こしに努めた。
- イ 近隣の貸館施設利用者を把握し、営業担当者が電話等による営業活動を行った。その結果、展示ホールを全面利用して行う展示会2件の新規利用を獲得した。
- ウ ビジュアル化した貸館誘致のため、ホームページや営業活動に利用できるコンテンツ用に施設の写真撮影を行った。今後、活用のためのコンテンツを検討する。
- エ 貸館施設の予約については、施設予約台帳において正確に管理し、空き情報を確認のうえ、お客様の利用内容や規模に合わせた丁寧な対応を心掛けた。また、併せて条例施行規則や利用料金規程に基づく貸館施設の受付を行うとともに、適切な使用についての周知に努めた。
- オ 県による新「県有施設予約システム」導入に合わせ、12月同システムの利用を開始し、利用者等が同システムにより貸館施設の空き状況を確認することが可能となった。
- カ 新規の施設利用者に対し、施設の利用支援業務の需要を把握するとともに、利用形態に応じたきめ細かな利用支援を行い、今後の継続利用に結びつくよう努めた。
- キ 貸館施設の利用希望者には、要望に応じて随時館内を案内するなど、懇切丁寧な説明を心

掛けた。

ク 陶磁器産業の振興等を目的にして展示ホール、国際会議場を使用する場合の減免制度の周知を図り、地域の陶磁器産業界などに展示会、カタログ撮影会、組合の総会などによる施設利用を働き掛けた。

3 セラミックパークMINO作陶館の運営

美濃焼文化の根付く地域の特色を活かし、幅広い層の来館者に陶芸文化の素晴らしさを伝える作陶体験施設運営の推進に努めた。

(1) 毎週金・土・日は、観光客、グループ、家族など一般の方を対象として、気軽に参加できる作陶、上絵付けの各体験コースを開設するとともに、夏休み期間中は講座開設を休止し、特に親子の作陶体験に対応した。

また、国際会議場など施設内スペースを有効活用し、弾力的な人員配置により、積極的に団体客の受け入れにも対応した。

◆ 2019.6月 多治見市主催土曜学習（展示ホール） 絵付け体験 110人規模

◆ 2019.11月 安八町立小学校（展示ホール） 絵付け体験 50人規模

(2) 毎週火・水・木を中心にじっくり陶芸に取り組みたい方に、伝統工芸士を講師として少人数でのきめ細かい指導を行う年間講座を開設した。

今年度は、4月から翌年度7月までの年間50回の講座とした。

[年間講座：36人、6講座/週、各50回のうち、今年度38回開催]

(3) 四季折々の行事に合わせた作品制作を体験するワークショップ企画を実施した。

◆ 単独開催ワークショップ

・ 7/27 素麺鉢とお猪口づくり

・ 9/25 オリベ・ストリートに飾るランプシェードづくり

◆ 岐阜県現代陶芸美術館コラボレーション・ワークショップ

・ 4/6 こいのぼりづくり

・ 7/6 風鈴づくり

・ 9/14 お茶碗づくり

・ 11/17 手びねり抹茶碗づくり

・ 2/9 3色の碗づくり

◆ 貸館施設利用者共催ワークショップ

・ 4/27、7/13、2/2 手びねりの器づくり

(4) 小学校学童保育からの要望に基づき、職員が出向き出張作陶体験を実施した。

◆ 2019.11月 土岐市立こども園 出張絵付け体験 50人規模

□利用実績

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
講座参加者	1,277 人	1,160 人	1,273 人
その他 (1 日体験コースなど)	2,895 人	3,191 人	3,656 人
合 計	4,172 人	4,351 人	4,929 人
事業収益	4,618 千円	4,652 千円	5,184 千円

4 自主企画事業の実施及び地場産業の振興に向けた取り組み

セラミックパーク MINO の主たる設置目的である陶磁器産業・文化及び観光の振興をテーマとした事業を中心に実施した。

(1) 美濃陶芸作家展 2019 [開催日：令和元年5月2日(木・祝)～5月4日(土・祝)]

「美濃陶芸文化の発信」を目的に、美濃の地を代表する陶芸作家 135 名の作品を紹介した。人間国宝から若手作家に至るまで、幅広い作家層への出品要請のもと、展覧会と販売会の要素を兼ね備えた、当地でしか開催できない高い独自性と品質を備えた内容とした。

今回も、この地から広く陶芸文化の魅力を発信し新しい顧客の創造に努め、作家の魅力を最大限に引き出す展示構成を行った。また美濃陶芸の原点である「美濃古陶片」の特別展示を可児市の「荒川豊蔵資料館」協力のもとに実現した。展示には牟田洞古窯跡から採集した陶片をはじめ、多くの陶片を展示し、高い評価を頂いた。

実演ステージでは例年大好評の作陶パフォーマンスを3名の作家に依頼し、日替わりのステージを開催した。

今回は準備段階から作家との意見交換をもとに企画のリノベーションを試みた。

まず、これまで実施してきた酒器の展示コーナーを変更し、作家の紹介コーナーを設置した。あわせて、会期を通して作家がお客様に見せたい作品を展示するため、購入後の当日の持ち帰りができない作品を事前に作家自らが設定し、魅力的な展示会場の整備に努めた。

会期については、以前より懸案事項であった最終日4日目の著しい集客低下と運営経費の削減の対策として、本年度より会期を3日間に短縮し内容を凝縮させるとともに、開始日を1日前倒しで開催した。この3日間の会期については3年間継続することで作家と合意した。

結果的には、入場総数は減少したが、売上は前年の4日間開催を超える売上となった。

□「美濃陶芸作家展」実績

	出品者数	入場者数	売上高 (陶磁器)
令和 元年度 (会期3日間)	135 名	4,966 名	11,515 千円
平成 30 年度	147 名	8,480 名	11,028 千円
平成 29 年度	148 名	9,975 名	14,040 千円

(2) 美濃焼インキュベーション事業

美濃焼のブランド価値の向上と産業振興を目的に実施した。

ア 異業種とのコラボレーションによる美濃焼のブランド化の促進

“美濃焼=安い”というイメージを払拭することと、美濃焼のつくり手のブランディングに寄与することを目的に、日本を代表するラグジュアリーブランド「レクサス」とのコラボレーションを継続実施し、ライフスタイルカタログ「レクサスコレクション」への掲載商品を提案した。今年度は、新規で4社8アイテム、合計で5社13アイテムが掲載された。

高級磁器ブランド「ノリタケ」以外に掲載された陶磁器は、地域ブランドでは美濃焼だけであり、“伝統と創造性が同居する美濃焼”として紹介された。

イ 「セラミックバレー」普及事業

「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」において披露されたロゴを、美濃焼産業及び幅広く地域振興に活用するため、運営協議会を立ち上げるべく、自治体、地元市民の有志と協議を重ねた。

ロゴ使用に関する規定の作成、使用に伴う承認手続きの開始、ホームページの立ち上げなどを行った。

(3) セラパーク楽々市

※ 『セラパーク楽々市』は、「あきんど市」（財団主催）、「青空マルシェ」（財団主催）、「骨董市」（民間主催）の総称。毎月原則、第4日曜日と前日の土曜日開催。

定期開催事業として、施設稼働率の向上及び施設のにぎわい創出に加え、陶磁器産業やその他の地元小売業等の出店による地域活性化を目的として開催した。

「あきんど市」は毎回40店舗程度の出店。「青空マルシェ」は毎回10店舗程度の出店となっている。

2004年8月からの継続的な開催実績を生かしながら、構成催事である「骨董市」（民間主催）との更なる連携強化を図り、集客増加に努めた。

同日開催を行う「あきんど市」「青空マルシェ」「骨董市」の3本建てにより家族3世代で楽しめる企画とし、更なる活性化を図った。

ア 「あきんど市」では、マンネリ防止策として、新規出店者を継続的に募ると共に、ミニワークショップを引き続き開催。告知チラシでの内容を分かりやすくすることにより、参加者の更なる増加に努めた。企画継続実績が16年目となる同運営については、出店者から選出されたメンバーで構成する運営委員会の機能強化を図り、出店者による自主的な運営を目指した。

イ 「青空マルシェ」は東濃地域の採れたての野菜や県産品を中心とするマルシェとし、つくり手の顔を見て直接買う販売形態で会話をしながら買い物をするという買い物本来の楽しさと呼び起こした。特に地産地消を意識し地元農家、加工製品を中心に出店要請を行った。

また、未就学児から小学生を集客する陶磁器に因んだゲームを毎月開催した。

※今期は屋上広場タイル貼替工事に伴い開催は4月～7月の合計4回。

ウ 「森の観察会」については、セラパーク楽々市と同時開催とし、集客効果を高めた。

(4) 地域の陶磁器産業界及び陶芸界との連携

「美濃陶芸作家展 2019」では公益社団法人美濃陶芸協会と美濃焼伝統工芸士会に、美濃焼インキュベーション事業では、美濃焼メーカーや多治見市陶磁器卸商業協同組合連合会の協力のもと事業を推進した。

また、物品販売事業では、岐阜県陶磁器卸商業協同組合連合会から一部商品の供給など協力を受け、ショップ運営を実施した。

(5) その他

ア 名古屋観光コンベンションビューロー加盟

2019年10月1日より同連盟の賛助会員に加盟。貸館PR、財団主催事業PR方法を協議した。

イ 施設連携

当施設の認知、集客PRを図るため、他県の団体との連携を行った。

・2019年7月13日(土)第13回モリコロパーク夏祭り

・2019年9月21日(土)滋賀県陶芸の森 セラミック・アート・マーケット

上記イベントでPRブースを無償提供いただき、陶磁器を使ったゲームを開催した。セラミックパークMINOの魅力などをPRし、今後の集客につなげた。

今後も、近隣施設との提携強化を図る。

5 施設としての魅力創造

(1) 回廊及びエントランスを魅せる空間として活用

エントランスでは、美濃焼に関する催事、周辺施設の施設案内や公共施設などから案内依頼される催事情報など、各種パンフレットやチラシ等を常置するとともに、回廊壁面においてもポスター掲示により近隣の催事情報や、産業、観光など、来館者への情報発信を行った。

また、アルコープにおいては、国際陶磁器フェスティバル美濃の受賞作品や美濃焼の展示を行い、来館者にとって美濃焼にかかわる空間とした。

(2) 自然観察会の開催及び里山の整備

ア 常日頃から、希少植物“シデコブシ”など、施設をとりまく自然環境保全を行い、地域の自然を体感できる「里山憩いゾーン」として、自然観察会やSNSでの情報発信により、幅広い層への啓発に努めた。

イ 親子参加を対象とした昆虫採集、バードウォッチング、木の実などの自然とふれあう「森の観察会」を実施し、楽しんで施設の自然環境保全の啓発を行った。

ウ バードウォッチングの企画運営では「土岐川観察館」の支援を受け実施した。

(3) 岐阜県現代陶芸美術館との連携

自主企画事業と作陶体験施設の集客を促進する観光施設として、また、県民への陶芸美術の涵養と陶磁器産業の振興に資するため、岐阜県現代陶芸美術館（以下美術館）との連携を図った。

ア 新規事業として美術館と岐阜県森林文化アカデミーと連携し、「セラパークあそび隊」を立ち上げ、ワークショップの実施や、ホームページ、SNSでの情報発信に努めた。

更に、一般企業の協賛により、木のあそび場と遊具の設置を完了した。

イ 財団が毎月発行する「イベントカレンダー」に美術館の催事情報を掲載し、広報活動を行った。

ウ 作陶館やイベントホールで、美術館が行うワークショップ等を開催した。

エ 美術館の運営諮問機関である美術館協議会委員として局長が参加し、セラミックパークMINO全体の活用について協議した。

オ 美術館と毎月意見交換を行い、財団と美術館との連携、施設全体で運営上の改善活動や施設修繕に取り組んだ。

(4) 魅力ある観光コースの設定

総合案内のショップスタッフを中心に、来館者に対し作陶体験、散策路など当施設の魅力を紹介し、併せて地域を周遊していただけるような近隣の観光情報の提供に努めた。

6 広報に関する取組について

ア イベントカレンダーの発行

セラミックパークMINOにおける催事情報等を掲載したイベントカレンダーを毎月発行し、県内を中心とした公共施設等、主要施設約200か所への備え置き、様々な方へ施設の周知を図った。

イ 自主企画事業等の開催に向けた広報

楽々市などの自主企画事業やショップでの展示企画の際は、マスメディア、県、3市の広報へこまめに情報提供を実施した。また、併せて地元ラジオ媒体を通して広報を行った。

ウ ホームページ、メールマガジンの活用

ホームページは自主企画事業や四季の最新情報を常に提供するよう内容を更新した。また、メールマガジン、SNSの発行も組み合わせて、費用を抑えながらも相乗的なPRに努めた。

7 ショップ&ギャラリーMI-NOの運営

美濃焼産業発展に寄与するため、地元作家等の陶磁器販売や県産品の販売を行うことにより、来館者にとって多様な魅力を備えた施設となるよう店舗運営に努めた。

売上は、施設全体の来館者が前年比で大きく落ち込む中、卸販売で補うことや商品の選定を工

夫し、目標を約840万円ほど上回ることができた。

- ア 新規の陶芸作家や、窯元、商社等の新作を素早く反映させ、陶磁器産地ならではの鮮度の高い魅力的な品揃えに努めた。
- イ 他店の活動報告を参考にしながら、ディスプレイには、四季折々の変化と行事を取り入れ、常に食卓目線のコーディネートを行った。
- ウ ギャラリーコーナーでは、若手陶芸家の活動支援を目的とした企画展を中心に実施（年間7回）した。時には、地元で活動している異素材のつくり手とのコラボレーションなど、魅力的な企画になるよう心がけた。
- エ SNSによる陶芸作品や美濃焼商品の紹介を実施した。
- オ 接客においては、安心してお買い物ができる雰囲気づくりに注意を払い、商品の説明においてはその背景にあるストーリーをお伝えすることを意識し、お客様と美濃焼との出会いの場としての店舗運営を心掛けた。お客様の状況を確認しながら、安心して買い物ができる雰囲気を心掛けた。
- カ 接客スキルの向上のために、感じの良い・美しい接客の所作について、スタッフで話し合いの場を設けるとともに、常時お客様への対応の共有を図った。また、ギフトラッピングのスキル向上を目的とした練習時間を設け、お客様の満足度の向上に努めた。
- キ お客様には商品紹介や企画展の案内を行う中で、お顔や好みを覚え、それをスタッフ間で共有しリピーターの獲得に努めた。
- ク お客様の購買意欲を高めるため、陶磁器、県産品のレイアウトを商品に合わせて変更し、常に興味を持っていただく店づくりに心がけた。
- ケ その他、POS レジを導入し、スタッフの作業や商品管理の効率化を図り、より接客に比重を置く環境づくりに努めた。

□販売実績

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
売上目標	16,000千円	15,000千円	25,000千円
売上実績	24,402千円	24,873千円	24,636千円

8 飲食施設の委託運営事業の実施

昨年に引き続き地元飲食店、全国展開チェーン店を中心にDMを送付後、電話営業、訪問営業を実施した。プロポーザルを実施し、株式会社ダイドーキッチンに委託した。

事業者の積極的な広報企画や魅力的な店舗作りにより、レストランでの飲食を目的とした来館者も見受けられ、集客による施設の活性化に大きく寄与した。

また、貸館利用者へのケータリングにも積極的に対応し、今後の施設営業の促進において、大きなプラス要素となった。

9 施設の維持管理に関する業務

セラミックパークMINO全体を、お客様の目線で「安全・安心・快適」な環境となるよう整備すると共に、無駄な経費の削減に努めた。

(1) 施設の安全確認

職員による施設巡視を徹底し、目視による日々の施設の安全確認を実施した。また発見された不具合等に対しては、必要な対策を、スピード感をもって実行した。

(2) 施設の清掃業務

館内清掃は、清掃員3名を配置し、特にトイレについては、常に清潔な状態を保つよう心がけ日常清掃を実施した。

2月以降は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、手指消毒用アルコールを増設するとともに、補充液を速やかに確保した。また、日々の清掃では、ドアノブ等の消毒を強化し、感染症の拡大予防に努めた。

また、定期清掃として、フローリング床のワックスがけやガラス清掃などを実施した。

- ・木床洗浄・ワックス塗布 年4回
- ・大理石洗浄 年3回
- ・カーペット洗浄・ガラス清掃 年2回

緑地管理業務は、シルバー人材センターを活用し、施設の玄関口である駐車場その他敷地内の清掃、樹木管理、草刈り及び敷地内里山の下刈り等の管理を実施した。

(3) 施設の警備体制

24時間体制で警備員1名を常駐させ、昼間は施設内巡回を中心とした警備、夜間は監視カメラ、中央監視装置などを活用した警備員室での機械警備を実施した。さらに、防犯カメラを3台増設し、警備の強化を図った。

(4) 環境衛生管理業務

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく適切な管理を実施した。

[環境衛生点検等実施状況]

業 務		実施回数	実施月
空気環境測定		1回/2か月	奇数月
飲料水検査	残留塩素測定	1回/週	毎週
	定期水質検査	1回/6か月	8月、3月
	特例水質検査	1回/年	3月
雑用水水質検査	残留塩素、pH値、臭気、外観	1回/週	毎週
	大腸菌、濁度	1回/2か月	偶数月

業 務	実施回数	実施月
貯水槽清掃点検	1回/年	12月
汚水槽清掃点検	1回/6か月	6月、12月
ねずみ・害虫駆除	6か月以内に1回	9月、3月
病虫害防除	ムカデ等発生時対応	随時

(5) 設備の保守管理

設備員2名を配置させ、施設内の空調、機械設備及び電気設備の日常的、定期的な点検管理を実施し、故障の未然防止、故障時の早期対応に努めるとともに、年間を通じて法令上必要な有資格者による点検等を行った。また、エスカレーター・エレベーターをはじめとした下記の設備機器については、個別に業務委託を実施し、各機器の保守管理を行った。

[設備点検等実施状況]

点検内容	実施時期	点検回数	実施月
氷蓄熱ヒートポンプ保守点検	冷房開始前	1回/年	7月
	冷房期間中	1回/年	10月
吸収式冷温水発生機保守点検	冷房開始前	1回/年	5月
	冷房期間中	1回/年	7月
	冷房期間後	1回/年	10月
	暖房開始前	1回/年	10月
	暖房期間中	1回/年	1月
	暖房期間後	1回/年	5月
自動制御機器・中央監視装置定期点検		2回/年	8月、1月
消防防災設備保守点検	防火対象物点検	1回/年	9月
	機器点検・総合点検	1回/年	3月
自動ドア等保守点検		3回/年	5月、9月、1月
昇降設備保守点検		1回/月	毎月
吊物・床機構保守点検		2回/年	7月、1月
高圧受変電設備保守点検		1回/月	毎月

(6) 維持管理経費の節減に向けた取組み

経年劣化に伴う修繕費の増大に対し、設備保守点検などの外部委託費、電気・ガス、水道、清掃用具・電球類等の消耗品費などの維持管理経費の節減に以下のとおり努めた。

ア 電気・ガス等については、館内空調の温度管理（夏期28度、冬期20度、美術館を除く）の徹底、館内照明の間引き点灯、部分消灯の徹底、滝の弾力的運用等に努めた。

イ 外部委託費の内、契約期間を長期契約にできるものについては、長期契約を実施し、委託料の節減及び事務手続きの削減に努めた。

ウ 消耗品費については、計画的なまとめ買いに努めた。

エ 新規貸出備品の協議を行い、今後さらに聞き取りを進める。

(7) 施設・設備の修繕及び中長期保全計画

ア 施設・設備の点検等により不具合の早期発見に努め、さらに計画的な修繕、更新を実施し、利用者が安全かつ安心して利用できるよう適切な維持管理に努めた。また、水道管漏水に伴う断水への応急対応等、突発的な不具合にも岐阜県と連携し対応した。

また、貸館施設の机、イス、展示台の長期間使用に伴う破損により、危険防止のため単年度負担金による買い替え購入を行った。

■ 令和元年度 (公財)セラミックパーク美濃発注修繕工事 (業務) 一覧

主要工事(業務)名	工事(事業)費 (税込)
池ろ過装置薬剤注入ポンプ交換	237,600
雑用水加圧給水ポンプユニットマグネットスイッチ交換	81,000
上水加圧給水ユニット冷却ファン交換	79,056
温水洗浄便座交換	66,000
消防設備交換	91,800
ショップシャッター修繕	57,200
グランドピアノ修繕	99,990
漏水箇所掘削調査	188,782
散策路展望台階段防腐剤塗布	330,000
冷温水発生機2次ポンプ圧力調節計	297,000
国際会議場音響設備不具合調査	66,000
カスケード7・8 笠石修理工事	627,000
合計	2,221,428

(注) 岐阜県現代陶芸美術館全額負担の工事 (業務) を除く

■ 令和元年度 備品購入一覧 (単年度負担金関連)

物品名	購入費 (税込)
貸出施設用机及び椅子購入	3,352,800
屋外用机購入	237,600
展示台修繕用部材購入	658,680
合計	4,249,080

イ 中長期保全計画及びユニバーサルデザイン化事業による岐阜県発注工事 (屋上タイル等修繕工事、照明器具更新工事、Wi-Fi 環境整備工事等) につき、施設管理者として対応した。受注者、岐阜県現代陶芸美術館及び施設利用者等との調整や来館者向け広報、安全対策等を実施した。また、次年度以降施工予定の工事等について、岐阜県の担当者と打合せ、

調整を実施した。

10 危機管理体制の整備

来場者の安全確保を図るため、「セラミックパークMINO危機管理規程」に基づき、地震など自然災害や火災への対応方法、不審者の侵入、不審物など事件・事故への対応について、職員等に周知を図った。また、火災避難訓練を年2回実施し、有事の際に的確かつ迅速な対応のできるよう美術館、関係機関との連携体制を図った。

施設内での万一の事故等に備えるため施設賠償責任保険に加入するとともに、イベント等で傷病者が発生した際には、救急搬送等適切に対応した。

その他、情報処理セキュリティーや個人情報保護などについて研修を行い、業務全般に万全を期した。

11 その他

(1) 評議員会・理事会等の開催

事業計画、予算など財団運営の基本的事項については、理事会、評議員会に諮り、法令に基づいた適正な財団運営を行った。

また、各種規程の改正を適宜行い、財団運営の見直しを図った。

(2) 利用促進協議会の運営

岐阜県及び3市の各自治体や陶磁器関係団体からなる「利用促進協議会」を開催し、第2期活性化プランに基づき、貸館施設の稼働率向上対策や公共施設としてのにぎわい創出などの取り組みを推進した。

(3) 適正な財団運営の推進

県の指定管理者、県及び3市の財政援助団体であることを鑑み、会計処理、備品管理、個人情報取扱など、日々の業務における必要な関係法令、諸規程等についての職員研修を実施し、職員の資質向上を図り、適正な財団運営を行った。

また、公益財団法人としての事業運営、会計処理について法令等に沿って運営するよう適正な処理に努めた。